

實明院殿百年忌法会のため五具足で荘厳された如来堂



発行所  
真宗高田派宗務院  
三重県津市一身町2819  
電話 059-232-4171  
FAX 059-232-1414  
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部

「高田本山だより」  
の役目

総務 藤森 邦夫

五十年に一度の勝縁である「開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会」は、皆様のご支援により、円成することができました。それからすでに五ヶ月が過ぎましたが、思えば、ここ数年の本山事務はこの大法会に向かう諸準備に追われる日々でした。

近年、我々の感じる時間の流れは非常に速くなり、また、世界は小さくなりました。毎日、刻々と世界中のニュースが報道され、悲惨な戦争の有様さえも茶の間に飛び込んできます。我々は情報において過飽和の状態に置かれています。昨年には、国難とも言われる東日本大震災ならびに放射能汚染も発生しま



したが、それもはるか昔のような気がします。このような急激な時代の流れの中で生きること、我々は個人の生活においても社会的にも様々な問題をかかえ、不安を増殖させます。このような時代ですから、阿弥陀仏の救いが必要なのです。

現在の日本は、核家族ならびに少子高齢化社会であり、都会への人口集中と田舎における超高齢化が進行中です。このために世代間の信仰の継承が難しく、田舎においては檀家減少により寺院の存立基盤が崩れつつあります。この状況に対応できる宗門体制を作るとは急務であり、高田派が祖師聖人のお念仏を伝え続けるためにも、事務機構の改革ならびに宗門の改革を行わねばなりません。ちなみに、すでに多くの宗派において、事務機構の改革が進められています。改革においては、教団内の多くの方々の意見を聞き、結束して

進めることが大切です。そのためにも「高田本山だより」を意見交換の場に出来ればと思います。積極的な投稿をお待ちします。

次に、「高田本山だより（昭和六十一年六月二十五日）」、前門様堯禊上人の「創刊号発刊によせて」の一部を記します。

「本山だより」は、本山と門末とのコミュニケーションのための機関誌としての大切な役目を持つことになるでしょう。本山のいろいろな方針が、肩肘張らぬ姿で伝えられ、末寺の住職、寺族、一般檀信徒の人々の率直な意見も、紙面に載せられることでしよう。勿論、十人十色で、それらの意見は、まちまちでしょうし、全く矛盾する意見もあろうかと思えます。しかし、それは当然のことであり、当局としても、その中の創造的、建設的な意見は、これを参考資料として考慮し、批判的な意見は反省材料として、すなおに受け入れるべきで、あくまでも、偏見や先入観に基づいて処理すべきでないと思います。



# 初めての法宝物検定

八月二十日から二十四日まで、高田短期大学仏教教育研究センターにおいて、仏教基礎講座（高田本山寄付講座）が開講されました。これは昨年度までの仏教入門講座とはことなり、高田派教師検定受検者には「教師検定講習Ⅰ」としても実施され、「仏教学」「真宗学」「仏教史」「真宗史」の各講座を一般の受講者と共に、学習するという新機軸が盛り込まれています。特に、今年度からは講座の二つに「高田の歴史と法宝物」が新規に加えられ、高田本山専修寺が所蔵する親鸞聖人ゆかりの聖教や、国宝重要文化財などの貴重な宝物について、鎌倉時代から明治時代に至る真宗高田派の歴史を宝物の複製本や写真図版を用いて紹介しました。基礎講座では最終日に検定試験が実施されましたので、ここに、その試験問題と解答例の図版を掲載しますので、読者の皆様も実力を試してみてください。解答は、如来堂大修理記念出版の『高田本山の法義と歴史』（平成三年五月、同朋舎出版刊）を探せば見つかります。ただ、この本に解答のすべてが掲載されているとは限りません。

**問1** 専修寺が所蔵する親鸞聖人直筆の名号の題名を二点書きなさい。

またその読み方も書きなさい。

題名(1) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



題名(2) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



**問2**

専修寺には国宝に指定されている聖教が二点あります。その題名と読み方を答えなさい。

題名(1) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



題名(2) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



**問3**

親鸞聖人の著作と門弟の書写本について、それぞれ代表的な本を一点ずつ選んで、その本の題名と読み方を答えなさい。

題名(1) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



題名(2) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



**問4**

重要文化財の専修寺文書のうち、室町時代末期に専修寺に宛てて発給された文書から二点選んでその題名を書きなさい。またその読み方も書きなさい。

題名(1) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



題名(2) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



**問5**

専修寺には、鎌倉時代に製作された木造阿弥陀如来立像が、二体安置されています。二体それぞれが安置されている建造物の名前を答えなさい。また、その読み方も書きなさい。

安置場所(1) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



安置場所(2) ( )  
読み方 ( )

【解答例】



(出題、専修寺宝物館主幹)

七高僧シリーズ②

# 龍樹菩薩(下)

親鸞聖人は『浄土高僧和讃』(龍樹菩薩)の六首目に

不退の位すみやかに

えんとおもわんひとはみな

恭敬の心に執持して

弥陀の名号称すべし

と讃嘆されています。これは日常よく称えられ、誰もが暗誦している和讃の中の和讃と言えますが、次の三点に注目したいと思います。

①不退の位：浄土に生れる身と定まる

(現生正定聚)

②恭敬の心：慎みうやまう心

③弥陀の名号：南無阿弥

陀仏

龍樹菩薩は『十住毘婆沙論

巻第五 易行品第九』で、仏

道を実践する場合に難行と易

行の二つの道があると述べて

います。難行は宇宙を持ち

上げるよりも難しく、また気

の遠くなるような時間をかけ

て励んでも成し遂げることが

できないほど難しいものであ

ると言っています。そうであ

るなら、易行を選んで速やか

に不退の位を得ようとする

と、それは意志が弱い下劣な人

が選ぶ道だと厳しく叱りつけて

いるのです。凡人に難行は無理であり、易行に走ろうとすれば叱責される。一体全体私たちはどうすればよいのでしょうか。

龍樹菩薩は安易な道に走ろうとする私たちを一旦は牽制しておいて、それでも不退の位を切望するのであれば良い方法があると次のように優しく語りかけるのです。

「仏法には様々な道が用意されています。難行は陸の道を行くようなもので、私たちが苦しめますが、易行は船に乘せて渡らせていただくようなもので、大変楽な方法なのです。もしも、私たちが速く不退の位に到達したいと願うならば、恭敬の心を忘れることなく弥陀の名号を称えなさい」と易行を勧めているのです。



チベットのSamyeLing寺院のナーガールジュナ(龍樹)金色の像

龍樹菩薩は、阿弥陀仏(法蔵菩薩)が誓われた第十八願の名(名号)を聞くことがあれば、来世ではなく、この世に於いて不退の位を得ることができるといただいたからこのように述べているのであり

ます。

阿弥陀仏がご自身の名号をお聞きになられるのは、私たちが恭敬心を執持して称えるからであります。親鸞聖人は徹底的な自己凝視を通した深い懺悔の果てに、名号を称える私たちの行為そのものが阿弥陀仏の廻向によるものであると領解されました。

(教学院第三部会)



世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

絵所頭 御本山絵所 安川如風

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所  
〒514-0114 三重県津市一身田町2819  
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414  
(本山宗務院内 絵所)

御本山御用達

## 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)  
電話 (075)371-0854・8181~2番  
FAX (075)344-2701番  
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

緑と共に75年

三重県知事免許認可  
(一級造園技能士)造園・庭園管理

## 山本造園

代表 山本 進一郎

津市栄真小川町 869-77  
TEL 059-232-7453  
FAX 059-232-7453



# こんな行事がありました

## ◆仏教文化講座

八月一日～五日の五日間にわたり第八十六回仏教文化講座が開講されました。法嗣殿の御親講が始まりました。文化講座は、今年から会場となった新しい高田会館ホールが蓮池に面していることもあり、満開の蓮を愛でながらの講座となりました。御親講では『講式の系譜』と題して、報恩講式(お式文)に繋がるお話をいただきました。二日目からは、大谷大学教授 藤嶽明信先生、東京女子大学教授 勝浦令子先生、広島大学大学院教授 町田宗鳳先生、随願寺住職 松山智道先生に講演いただきました。

様々なテーマの講義に聴講者は真剣な顔つきで聞き入っ



代表で表彰をうける  
浄福寺住職 鈴木紀生氏と  
東海寺同行 松浦美佐子氏



高田会館ホール前の蓮池

## ◆歴史まるごと体験塾

八月九日～十一日の二泊三日の日程で、小学校五・六年生を対象とした歴史まるごと体験塾が開催され、三十二人の小学生が参加してくれました。今年で第十回を迎え、五百年以上もの歴史がある高田本山と二身田の寺内町の歴史をガイドさんから教えてもらい、体験し、歴史や文化を学びました。

八月九日～十一日の二泊三日の日程で、小学校五・六年生を対象とした歴史まるごと体験塾が開催され、三十二人の小学生が参加してくれました。今年で第十回を迎え、五百年以上もの歴史がある高田本山と二身田の寺内町の歴史をガイドさんから教えてもらい、体験し、歴史や文化を学びました。



こんにゃく作り

体験学習では、和菓子作り(こんにゃく作り・和本作り)粘土細工などさまざまな手作り体験を楽しみました。驚きいっぱい体験に目をまんまるとして、汗を流しながら一生懸命こんにゃくや和菓子、和本を作りました。自分たちで作ったこんにゃくや出来たての和菓子はみんなでおいしくいただきました。また、夜にはけん玉や、メンコといったテレビゲームとは違う昔の遊びをしました。宿泊は本山境内の用度講、お盆前はとても暑い時期にエアコンもテレビもない大広間に布団をならべ、みんなで寝起きを共にして、朝には御堂へのお参り、御堂のたたみ拭きをしました。広い御堂のたたみ拭きは大人でも大変ですが、子供たちにとっては普段しないことをするのは楽しいので



御堂のたたみ拭き



みんなで朝ご飯

しようか、みんな一生懸命たたみを拭いてくれました。三日目には歴史学習として、今回は昭和三十年代の頃の本山、寺内町の様子をみんなで見学しました。サーチして、大きな地図にまとめ、班別に自分たちが学んだことを発表しました。教科書には載らない歴史や出来事ですが、当時の暮らしに触れ、直接感じた当時の人々の気持ちは子供たちにとって大きかったのではないのでしょうか。たくさん学び、たくさん体験し、今までとは違った観点で歴史を感じてもらえるようになれば嬉しいことです。

高田本山御用達

# 井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)  
(〒600-8503)

TELフリーダイヤル 0120-075-720  
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

## 今年も美しく咲いてくれました

高田本山の蓮は、本山職員(柏原)が毎日お世話をして育てています。おかげさまで、今年も立派な花を咲かせ参詣者の皆様を楽しませてくれました。





# どうぞ納骨堂法会へ

私たち仏教徒は、遺骨を大切にします。

お釈迦さまが亡くなられた時に、お弟子さんたちはその遺骨をしのんで、ご遺骨（仏舍利）を分けてストウパー（仏塔）といわれる建物に納めました。現在各地にある五重塔や三重塔などは、本来仏舍利を納める建物なのです。

御開山親鸞聖人が亡くなられた時、高田派第三世顕智上人はご遺骨の一部を関東に持ち帰って、下野専修寺の御廟などに納められました。

一六七年には、一身田の本山にも御廟を建てて、下野の本寺専修寺より聖人の御歯骨五粒を納めました。

私たちも、家族が亡くなれば遺骨をお墓に納めます。普段あまりお墓参りをしない人でも、お盆やお彼岸などにはお墓に足を運ぶことが多いでしょう。また高田派のお同行は、親鸞聖人のみもとでお浄土に生まれるよろこびを共にしたいという想いから、ご遺骨の一部を本山へも納骨する習慣があります。

十一月三日、四日の両日は

納骨堂法会が勤修されます。この法会は、古から高田派の同行に伝えられてきた本山納骨をご縁に、聖人のみもとで仏恩報謝の心をもってお参りに遇わせていただくために、昭和三十八年から始まった新しい法会です。

お七夜さんにも負けないうらいの参詣者で境内が賑わいます。十時三十分からは法主殿、法嗣殿、僧侶の方々が行列で御廟と二つの納骨堂をお参りされ、十一時からは御影堂で勤行とお説教がつとまります。どうぞ納骨堂法会へご参詣下さい。



賑わう納骨堂内



## 本山建物紹介 太子堂となりました

如来堂の西隣に小さなお堂が建っています。この度このお堂に聖徳太子立像をご安置いたしました。「太子堂」と改めることになりました。

もともとこのお堂は、明治五年（八七二）に経蔵として建築され、五千巻の一切経が納められていたと聞きます。その後、第二次世界大戦において、お同行に多くの被害者が出たことから、一切経を他へ移し内部を改修し「忠霊堂」とされました。中に入ると、正面にご安置された馬にまたがった童子の聖徳太子像を中心に、三方の壁面には五段ほどの位牌段が造られ、千を越える位牌が並べられていました。そのため、一般には「位牌堂」とも呼んでおりました。すべて先の大戦において戦没されたお同行の方々であると聞いております。戦争を知らない私にも、ズラリと並ぶ位牌の数には悲痛さを感じずにはおれません。



太子堂

新しく「太子堂」には、福井教林寺住職で仏師でもあります三浦世雄氏が、一年以上かけて彫

られた聖徳太子立像をお迎え致しました。太子像は高さ約八十七センチ、松の寄木造りという技法で作製されており、聖徳太子十六歳の頃の姿を写した立像で、特に真宗では「真俗二諦像」とも呼称します。袈裟と手に持った柄香炉で仏法を、着用している袍で世法を象徴しており、仏法を基盤とした世俗の生活の中にこそみ仏の教が弘まるところを表します。

親鸞聖人は、わが国の仏法興隆に尽力された聖徳太子を「和国の教主」と崇められ、また、お念仏のみ教えに導いてくださったお姿を阿弥陀如来の化身と尊ばれました。

この像つねに帰命せよ  
聖徳太子の御身なり

この像ことに恭敬せよ  
弥陀如来の化身なり

（『皇太子聖徳奉讃』第四十二首）

位牌堂が造られた当時の悲痛な想いを、聖徳太子の和の精神が受け継ぎ、太子堂より仏法がひろまっていますように。

聖徳太子立像 三浦世雄氏作



リレー法話

今生の一大事

高林 亮英

皆さんもよくご存じの真宗所依の經典である『仏説阿弥陀經』は、はじめに極樂浄土と阿弥陀仏及び無量の諸仏のすばらしいすがたと功德を説いて、私たちに浄土を願うところをおこすよう勧められ、次いで、そのすばらしい浄土に往生する道が説かれています。その要のところは、

わらん時、心顛倒せずして、すなわち阿弥陀仏の極樂国土に往生することを得ん。

とあり、この文の表面に顕された意味(顕説と言います。)

「阿弥陀仏のお働きを聞いて、南無阿弥陀仏の名号をしつかりとところに留め、いつもいつも、心乱さず一心に念仏申せば、その人が命終の時に臨んで、阿弥陀仏がその前に現れて極樂浄土に往生させてくださる。」といういわゆる「臨終来迎」の文であります。

ところが聖人は臨終来迎について、「……真実信心を得た人は、必ず往生して仏となる身に定まっているので、臨終をまつこともなく来迎をたのみこともない。……」(『御消息』)と述べられ、真実信心を得た人は臨終の来迎ではなく、臨終にいたるまでの平生において、今すでに弥陀の大悲に包まれていたのだとお示しくださっています。

そこでこのご領解を受けてもう一度先の文を見てみると、聖人がその言葉の中に深く隠れている真の意味を明らかに

されている(隱彰と言います。)(ことが見えてくるのです。

まず「聞説阿弥陀仏」の「聞」について、一般に「言うことをきく」というときの「信順する。」というふうに解すると、

聖人が『念多念文意』に「……また、きくというは信心をあらわすみのりなり。」と述べられたおこころに添うことがわかります。

次に「執持名号」について、執持とは、ころにしつかりと保ち失わないことでありますが、聖人は「執持はすなわち一心なり、一心はすなわち信心なり。」(『浄土文類聚抄』)と述べられ、「真実の信心はかならず名号を具す。」(『教行証文類』)とも仰せになっているところから、「執持名号」とは、

弥陀の名号を心に信受することとで、これすなわち真実の信心なのであります。また、この文の中の「其人臨命終時」という言葉も、顕説と隱彰の違いから大変重要な意味をもつ言葉であります。すなわち、顕説は、「その人命終の時に臨みて」と読むこ

とで、先の文が臨終来迎を説くものとなりますが、聖人は「その人 命終に臨む時」で、と読まれてその隱彰を明かされ、真実信心の人は、臨終を迎えるまでの平生において、現にいま弥陀大悲のおはたらきをいただいているとお示しになりました。

經典の多くはその言葉の奥に深い真意が隠れており、聖人はその真の意味を説き明かしてくださいましたのであります。

このように味わってみますと、『阿弥陀經』の説くところは、表面では自力諸行の教えでありますが、隱彰の面から見ると、真実信心をいただき、南無阿弥陀仏と名号を称えるところに深い深い喜びと安らぎの日々があることに気付かされるのであります。

聖人のみ教えは自力往生や死後の話ではなく、今日も生かされている私の今この時の重大問題であり、今生の一大事であることを肝に銘じたいものであります。

(津市 長徳寺住職)



ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

京仏壇京仏具・ご本堂内装 お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店/京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代) 東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈! お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

# ご和讃のお話

長谷部行雄

仏法力の不思議には

諸邪業緊さわらねば

弥陀の本弘誓願を

増上縁となづけたり

(浄土高僧和讃

善導禪師

第十首)



(現代語訳)

我等の思いを超えた弥陀の本願力は、いかなる邪悪の業の力をもものともしないから、弥陀の本願を「すぐれて強大ならしめる働き」と名づけている。

(一)法主著

『註解国宝三帖和讃』

今回の和讃は、親鸞聖人が浄土高僧和讃に七高僧の第五祖善導大師を讃えてつくられた全二十六首の第十首目の和讃であります。

善導大師は、第四祖の道綽

諸邪業緊もよく礙ふるものなし。ゆえに増上縁となづく。

(『観経疏』)

をもとにして書かれたのが今回の和讃です。この和讃は、弥陀のご本願は悪業煩惱にさまたげられず、衆生のために増上縁(特別にすぐれた因縁)となることを示されています。

私たちが迷いの世界の苦しみから脱してさどりの世界に行くことのできないのは、自らが作る悪業によるのであり、この悪業が私たちが迷いの世界につなぎ止めているので、邪の業緊といわれているのです。

しかし、ひとたび阿弥陀如来のご本願に遇わせていただければ、必ず浄土で悟りを開けるのです。よって如来のご本願を増上縁と名づけられれ徳を讃嘆されています。

(津市 最勝寺住職)



今回の和讃は、親鸞聖人が

浄土高僧和讃に七高僧の第

五祖善導大師を讃えてつくら

れた全二十六首の第十首目の

いつつの不思議をとくぞなかに

仏法不思議にしくぞなき

仏法不思議ということとは

弥陀の弘願になづけたり

(『浄土高僧和讃』

曇鸞和尙 第十三首)と、善導大師の「観経疏」(観無量寿経の解説書)にあるご文

武田龍精編

往生論註出典の研究

論大綱/総説偈文/観察門/廻向門/解義総説/起観生信/観察体相/浄入願心/善巧摂化/難菩提障/順菩提門/名義撰対/願事成就/利行満足/總結釈の論集/参考文献略記一覽外

定価9000円税込

林智康著

親鸞聖人と建学の精神

知恩報徳と常行大悲/前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ/世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ外

定価1300円税込

北畠晃融著

仏道を学ぶ

定価1680円税込

普賢保之著

本当の幸せとは

—自己を見つめて—

定価1000円税込

無名会同人編

仏と人47

定価410円税込

松岡秀隆著

蓮如上人の門弟の人々

定価2500円税込

山崎龍明著

歎異抄とともに

定価1050円税込

永田文昌堂

600 8342 京都市下京区花屋町西洞院西入  
F A 話 0755・3371・9666  
振替 0150・2051・4903311



高田本山御用達 三重県仏教会御推薦

石碑 記念碑 燈籠



高級御影石専門店

御影石材株

(石に御用の方は) 0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前) ☎059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達 全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式会社 石仙 STONES

(旧(有)山本石材店)

☎0120-67-4114

四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎059-331-4114

これからの  
本山諸法会

◆讃佛会

九月十九日～二十五日

み仏のお徳を称え、ご先祖の恩に謝し、いただいた法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会です。他宗では彼岸会と呼ばれておりますが、真宗では讃佛会と申しております。

彼岸の入りより七日間、朝七時から、昼十一時三十分からの二回、勤行とお説教が勤まります。二日には法主殿の御親教が行われ、共にご法縁を喜ばれます。

晨朝 午前七時より

お日中 午前十一時三十分より

◆資堂講法会

十月一日～三日

資堂講は普く有縁の方々が入会できる講として設けられたものです。法会は御影堂に於いて十月一日より三日間、お日中に講加入者の法名記載の過去帳を中央卓に置いて

◆納骨堂法会

十二月三・四日

本山では親鸞聖人の御廟のそばに、大切な方のご遺骨(分骨)を納めていただいております。親鸞聖人のお徳を偲ぶとともに、大切な方も聖人のお近くにおいてあげたいという願いから始まった習慣で、その後納骨堂が造られ「お届けまいり」と称するようになりました。

本堂でのお勤めに先立って、法主殿・法嗣殿が御廟、納骨堂、第二納骨堂を参拝されます。

納骨堂勤行 午前十時三十分より

御影堂勤行 午前十二時三十分より

◆秋法会

十一月五日～十日

納骨堂法会に続き秋の千部法会が勤まります。進納所にて講千部に加入いただいた方の法会です。前三日間は新加入の方、後三日間は

て勤められます。  
お日中 午前十二時三十分より

昨年までに加入された方の法会が御影堂にて勤められます。  
お日中 午前十二時三十分より

◆中興上人御正當

十二月八日～十日

高田派中興の祖である第十世眞慧上人は、二五三年十二月十日に御往生されました。高田派の興隆を成し遂げられた功績を偲んで法会が勤まります。御影堂にて。  
日中 午前十一時三十分より

これからの  
本山諸行事

◆第五十五回檀信徒研修会

十月二十三日(火)

午前九時から御影堂前にて受付全国の高田派お同行を対象にした研修会です。午前中は講師の法話をご聴聞いただき、お昼からは班別研修会を行います。  
日頃からの質問・疑問にお答えいたします。

◆教学院研究発表大会

十月三十一日 午前十時開会

高田派教学院の研究員とご応募いただいた僧侶が日頃の研究成果を発表します。又午後には三重県立博物館県史編纂グループ滝川和也氏をお招きして特別講演も行われます。

一般聴講歓迎。  
聴講無料。

◆坊守婦人合同研修会

十月十二・十三日

本山では別院や一般寺院にある婦人会が集まり高田派婦人連合会を作っています。  
毎年一回、一泊二日の研修会を開き、法式作法や法話、講演を聴講し研修を行っています。  
今年も研修会を計画中です。お申し込みは宗務院教学課まで。



諸法会・諸行事等へお車で越しの方は、  
唐門前駐車場または、本山西側の大駐車場を  
ご利用下さい。

寺院名

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索